

# ここが問題！リニア新幹線

第98号 2022年10月30日 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

## ★★★ストップ・リニア！訴訟第24回口頭弁論（10/17）★★★ リニアトンネルと川崎市導水隧道の近接交差による 市民水道水への影響、工事車両による中北部の大気質 悪化などで、天野共同代表の証人尋問実施 ～東京地裁



10月17日  
東京地裁

ストップ・リニア！訴訟第24回口頭弁論が10月17日午前10時15分、東京地裁103法廷で開かれ、原告側の研究者2人と原告の天野氏に対する証人尋問が行われました。

午前中証人に立ったのは学芸大学名誉教授・小泉武栄氏（地政学）で、小泉さんは東海道線丹那トンネル工事中の1930年11月28日丹那山地付近を震源とするM7.3の大地震が発生し、トンネルの北向きに2.1メートルの横ずれが生じ、トンネルは閉塞した過去の例を挙げ

地下だから地震に強いとするJR東海の考えは誤りだと指摘しました。

午後はまず、南アルプス（赤石山地）の地質調査を50年以上調査してきた地質学者の松島信幸氏が証人として原告、被告双方の代理人から質問を受けました。松島氏は南アルプスの地質は隆起しやすい地層が褶曲しており、さらに地質も柔らかくリニアの大トンネルを掘るには危険な地盤であると証言した。また、南アルプスは山全体で帯水しており、工事によって膨大な地下水が失われるおそれがあると警告しました。92歳の高齢で証人尋問に応じた松島氏の証言に対し、休憩時に傍聴席から大きな拍手が送られました。

### JR東海は、リニアトンネルと崎市導水隧道の交差、安全かどうか説明していない

この日最後の証人は、東京・神奈川連絡会の天野捷一共同代表でした。天野氏はJR東海による説明会の一方的な進め方や、工事車両の走行による川崎市中北部の大気汚染被害、川崎市導水隧道（地下水道トンネルとリニアトンネルの近接交差などについて証言しました。

天野氏は、大規模なぜん息公害被害を教訓にして川崎市は全国に先駆けて環境影響評価に関する条例を成立させ、クルマの排ガスからの二酸化窒素の環境基準について国の0.06～0.04ppm以下の基準を原則にしつつ、0.02ppm以下という独自の目標値を定めている。また、川崎には独自の気管支ぜん息患者の医療費助成制度を設けているが、ここ10年では宮前区・多摩区・麻生区でぜん息患者の数の増加率が高まっており、リニア関連144万台の工事車両はこの地域を走行するので患者数の増加が予想されると述べました。

相模原市緑区橋本で直径3.5メートルの導水隧道のわずか4メートル上に直径14メートルのリニアトンネルが造られ、導水隧道にリニア工事が影響した場合、150万の川崎市民への水道水、工業用水の供給がストップするとして、「近接工事でも安全だ」とするJR東海に詳しい工事説明を求めたが、説明はなく、この件について川崎市民に説明会は考えていないと答えていることを明らかにしました。次回11月7日の第25回口頭弁論で沿線各都県の原告ら6人が証言します。

# 小野路非常口（東京・町田市）からの大深度トンネル調査掘進を計画か ～JR東海が11月13日から15日まで3回の工事説明会を告知

第一首都圏トンネル：小野路非常口（令和3年3月）



シールドマシン  
(小野路・神奈川県駅（仮称）間用)



シールドマシン  
組立の準備工

昨年3月の小野路非常口シールドマシン組立説明会

側の掘削を行います」と記されています。

今、東京の北品川非常口から始めた調査掘進は目標にしていた今年3月までのわずか6分の1の50メートル掘ったところで添加剤注入ノズルにズリがこびりつきシールドマシンが動かなくなっています。愛知県の調査掘進もわずか50センチ掘ったところで掘削工事が止まっています。

静岡県の大井川減水問題、沿線各地の工事事故、工事残土の処分先が決まらないことなどで工事が大幅に遅れているのに、JR東海は開業延期を表明せず、今なお「2027年開業」を掲げて無理やり工事を進めようとしています。現在の調査掘進強行は明らかに大深度トンネルの本工事を進めようと狙ったものです。

## 焦って工事を強行すれば、トンネル掘削で事故が多発し、住民の信頼を失くす

北品川非常口のシールドマシン停止についてもJR東海は施工管理ミスを認めておらず、社内シールドトンネル検討委員会や8月9日の報告でも事故とは書かず「慎重に調査掘進を進めている」と事実を隠そうとしています。昨年夏から行われたシールドマシンの安心・安全等の説明会でJR東海が高言した「外環道事故のような施工管理ミスは起さない」の約束はたちどころに嘘になりました。8月9日の説明資料では、北品川の調査掘進の最下位には、シールドマシン前方に地表から地下83メートルまで立穴を掘って、そこからシールドマシンにこびりついたズレを除去すると書かれています。JR東海は住民に今回の事故について「よくあることだ」と答えています。住宅街の地下で同様の事態が起きたらその都度修理用のトンネルが掘るといのでしょうか。

率直に大深度トンネル工事の安心だけを訴え、自前で地質・地盤調査丁寧に行わず、住民をだまかそうとしてきたJR東海の思い上がった姿勢が今つけとなって現実に跳ね返っているのです。

## 次は川崎でも調査掘進説明会を予定か～

### 地質調査の実施、調査掘進事故の再発防止策ない工事は危険だ

町田の次はおそらく川崎市内の梶ヶ谷、東百合ヶ丘非常口からの調査掘進の説明会でしょう。岐阜や長野でのトンネル事故も、徹底した防止策がないまま工事を再開し同じ崩落事故が続発したものです。説明会の前に、まずは、市内大深度地下の地質・地盤調査をやり直すことが必要です。

JR東海は10月、リニア新幹線町田市内の小野路非常口～上小山田非常口間の工事説明会（調査掘進）を11月13日から15日にかけて3回にわたって行うことを沿線住民に告知しました。告知文書には「町田市内のトンネル工事はまず小野路非常口から上小山田非常口へ掘削します。当該区間では、まず、先般ご説明させていただいている安全の取組を自治で確認することに主眼を置きながらシールドマシンを動かす『調査掘進』の範囲の掘削を行い、その後準備が整い次第、調査掘進範囲より西

### JR東海調査掘進町田説明会日時・場所

★11月13日(日)14:00～

町田市バイオエネルギーセンター3階

★11月14日(月)19:00～

忠生市民センター2階ホール

★11月15日(火)19:00～

鶴川市民センター2階ホール



## 歩いてチェック リニア川崎ルート第1回 10人で踏破 等々力非常口(中原)→千年新町(高津区)～10月23日

東京・神奈川連絡会は川崎市内16.3キロのリニア大深度地下ルートの地上踏破を計画していますが、10月23日、第1回として中原区等々力非常口から高津区千年新町までのルート上を歩き、沿道の住民にリニア新幹線工事の問題点を訴えました。

### 「リニア工事中止を」「大深度法は憲法違反だ」を訴える黄色い集団 ～ 若い家族連れなどの市民が注目

当日午前11時に等々力ミュージアム前に東京・神奈川連絡会の10人のメンバーが集まり、等々力非常口前の多摩川土手で出発式を行いました。近くにいた方からは、「初めてリニアの非常口だと知った」、「頑張ってください」と声をかけられました。写真の背後に見えるのが工事中の非常口です。出発式の後、一行は「リニア反対」、「大深度法は憲法違反」などと書かれた黄色のビグス(ゼッケン)を身に着け、まずは等々力競技場、とどろきアリーナ前をパレードしました。日曜とあって等々力公園は家族連れなど多くの市民でにぎわっていましたが、黄色いゼッケンや横断幕に関心を示す市民も多く、「リニア工事中止を」と呼びかけるパンフの受け取る方も多くいました。

行進は宮内中学校、富士通川崎工場、川崎市立聾学校などリニアルート上や周辺を歩き、南武線をくぐって新城中町に入り、新城神社から千年新町入口の幼稚園まで進みました。ここで予定の「第1回歩いてチェックリニアルート」は終了しました。時間は12時50分でした。

一行は南武線武蔵新城駅まで歩き、駅前でリニア問題をアピールし、パンフを配布して行動を終えました。

晴天で気温も上昇し、皆さん汗まみれの行進となりましたが、元気で楽しい機会を持てたと思えました。次回は高津区内の残りルートにするか、梶ヶ谷非常口から東百合ヶ丘に向けたルートにするか今後詰めて皆さんにお知らせします。



武蔵新城駅前でアピール

## 「東百合ヶ丘非常口のシールドマシン掘進の 説明会は今年度中に行う」

### 「調査掘進を行うかどうかは未定」

#### ～JR東海が連絡会メンバーに回答

東京・神奈川連絡会の伊藤清美さんが10月13日宮前区のJR東海の中央新幹線神奈川工事事務所川崎分室を訪れ、シールドマシンによるトンネル掘削工事の技術的な問題点や、東京・北品川工区でのシールドマシン故障問題などを質しました。JR東海側は社員3人が対応。



東百合ヶ丘非常口  
(工事中写真) JR東海

シールドマシンの調査掘進に関連し、「東百合ヶ丘非常口のシールドマシンの試験運転期間は」との問いに対し、JR東海側は「2週間から1か月ぐらいを考えている」と答え、住民説明会を今年度中に行う予定」と述べました。今年中ではなく来年3月になると見られます。

北品川非常口のシールドマシンの故障についてJR東海側は「8月9日の調査掘進の進捗情報に記されている」と前置きし、「昨年10月から、泥土圧、添加剤、速度等の設定条件を変えながら進めたが、取り込む土の量に応じて添加剤を増やす手動作業がうまく調整できず、何度も注入操作を繰り返したものの、カッターヘッドの注入入り口からの注入が出来ず、注入操作を中止した。ゴムシールが破け、チャンバー内に添加剤等が漏れ出した」と説明しました。

以上を報告した伊藤さんによりますと、10月9日東百合ヶ丘非常口を視察したところ、シールドマシンの組立作業は終了しており、10月28日から試運転に入る日程が示されていました。

2面の記事で示されたように、11月中旬には東京・町田市で調査掘進説明会が予定されており、川崎での説明会も急いでいるようです。

## JR東海がオープンハウス型説明会開催

### 調査掘進に反発する住民の懐柔が狙いか

東京・北品川工区での大深度地下調査掘進の中止で、事故原因などで住民から猛烈な反発が出ているためか、JR東海は10月14日、オープンハウス型の説明会を開催すると周辺住民に告知しました。

日時は12月9日(金)、12月10日(土)の午前10時から午後4時で、会場は品川区中延の荏原第4地域センターとなっています。品川区内ではさらに2か所で開催し、大田区、世田谷区内でも来の早い時期に開催するとしています。

会場内ではシールドトンネル工事の概要について、説明パネル、映像資料、模型などを自由に見てもらいJR東海の社員が説明に応じると書かれています。

JR東海はこうしたオープンハウスがた会場を常設すべきことはもちろんですが、今回の調査掘進の中止について広い市民を対象に故障原因や同様の事故に対する対策について説明会を開くことが求められます。

## ストップ・リニア！訴訟の傍聴を

### 11月7日(月)第25回口頭弁論

#### 6人の原告らの証人尋問

集合:午前9時45分東京地裁前

報告集会:午後5時

衆議院第一議員会館多目的ホール

### 11月24日(木)控訴審第2回口頭弁論

#### 中間判決の差戻し求め原告側が陳述

集合:午後1時15分東京地裁前

報告集会:午後4時

院内で開催予定

## ここが問題！リニア新幹線 NO.98

発行:リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一(中原・高津)090-3910-8173

山本太三雄(宮前) 090-8775-1879

矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568